カズオの定理

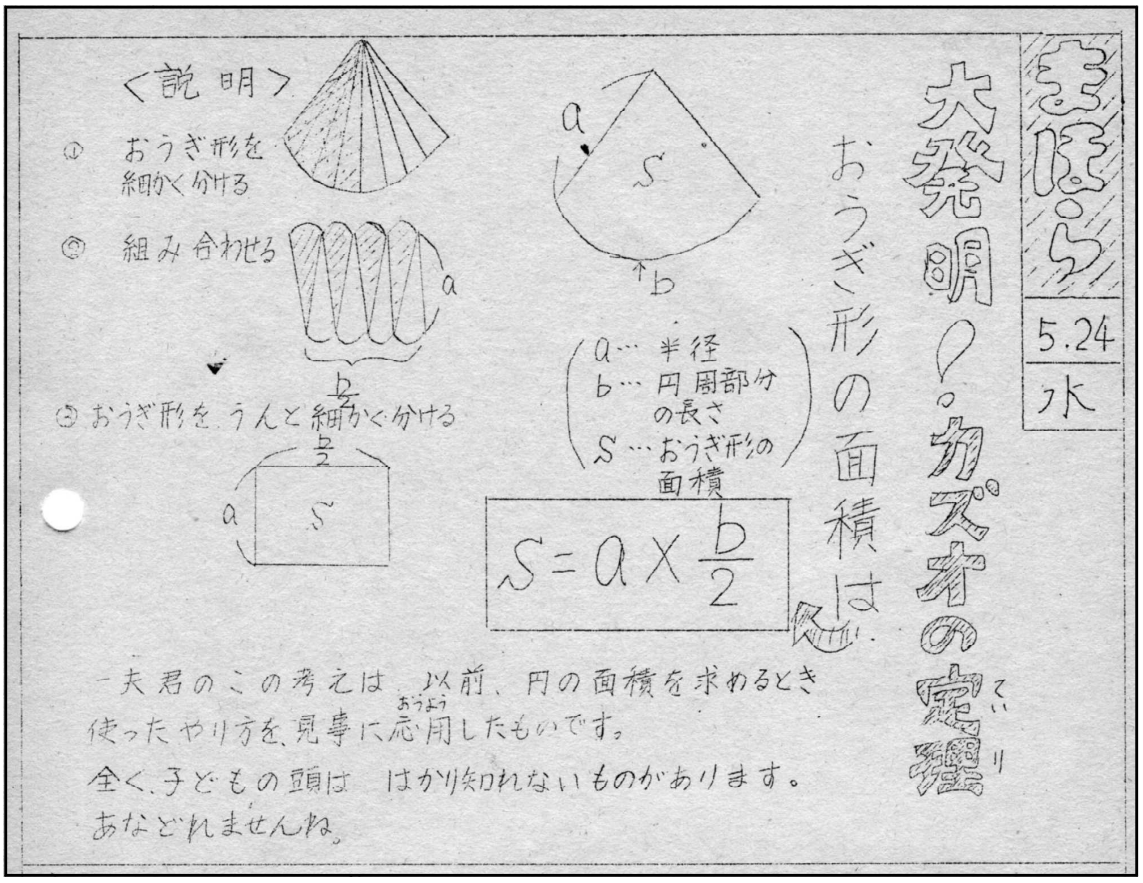
S53.5.24 大滝小年

カズオ君は、とてもシャイな子で、4 年で担任した当初は授業中に発言することはほとんどなかった。

そんなカズオ君は学年が上がるにつれ、授業でもみんなに臆することなく発言するようになっていった。

６年生の算数の時間、おうぎ形の面積を求める勉強をしていたとき、カズオ君は、教科書に出ていない、全く新しい計算方法を考えついて発表してくれた。

その考え方のすばらしさに感動して「これは『カズオの定理』と名づけよう。」といって学級通信に掲載したのだった。



、